

NO. 491

人権さんだ



令和元年度
三田市人権ポスター優秀賞作品

八景中学校 1年
永濱 咲希さん

友達のステキなところ
また発見!
武庫小学校 5年
兼松 亜美さん

令和元年度
三田市人権標語入選作品

人権さんだは、みなさんに人権に関する気づきや情報などをお届けします。新たな発見や共感したことなどを含めてご意見、ご感想を人権推進課までお寄せください。
問い合わせ＝福祉共生部共生社会推進室人権推進課
(559-5148 FAX562-1294 eメールアドレス jinken_u@city.sanda.lg.jp)

子どもたちの思いを届けます 人権作文から、人権について考える

12月7日(土)「人権と共生社会を考える市民のつどい」において、市内小・中・高校生3人による人権作文の発表がありました。日常生活の中での気づきや思いを、まっすぐに表現した作品でした。
その中から、今号では、小・中学生の作文を紹介します。(高校生の作文は、次号で紹介します。)

優しさを行動に移す勇氣

あかしあ台小学校 6年 谷川 心陽



▲谷川 心陽さん

みなさんは、差別や偏見について考えた事があるでしょうか。私は私の家族が大好きです。うれしいことがあった時も悲しいことがあった時も家族は私のそばにいてくれます。

以前、大好きだったおじいちゃん、がんで亡くなりました。その時私は、がんに限らず両親や兄弟が病気になったらどうしよう

うと考えてしまいました。

そんな時は、障害のある人が周りから差別されてとても傷ついているというテレビの番組を見ました。脳性マヒによりうまく歩けない人が、周りから冷たい目で見られるという内容でした。

その人は、「自殺を考えたこともある。」と言っていました。周りの目がそれほど人を傷つけているということ、私はそのテレビを見て、初めて知りました。その時私は、もし家族が病気になったり、障害のある人になったりしたら、そのような冷たい目で見られるのではないだろうかと不安になりました。

「障害のある人だから」「病気だから」「体が不自由だから」それだけで周りから差別されるなんてと考えると心がいたくなりました。

私のクラスにはAさんというとても絵が大好きな優しい女の子がいます。でも障害が原因で、何か気に入らないことがあると怒ってしまったり、気持ちをうまく伝えられなかったりすると、コミュニケーションをとるのが難しくなってしまう、周りの友達は戸惑うこともあります。そんな時、私は分かりやすく話したり、仲良くしたり、気持ちを分かり合った

りすることが私たちクラスメイトの役目だと思えます。5年生の時

には、いっしょに自然学校に行きました。Aさんは、虫が苦手でおびえてしまうことがありました。けれど、落ち着いてからそばに行つてゆっくり話をしてみると、実はダンゴムシが好きで、たくさん知識をもっていました。その話でみんなとても盛り上がりました。また、本当は友達と話をするのが大好きで、リーダーさんや先生や私たちの似顔絵を描いてくれ、とてもうれしかったです。

こんな経験を通して私は、相手に寄りそいつながろうとすることの大切さを感じました。テレビで見たようにその人とながらみせず、障害があるというだけで、みんなとちがうという偏見の目で見るのはおかしいと感じます。

お母さんと一緒にケーキを買いに出かけた時のことです。白い杖を持つている人がケーキ屋の駐車場にいました。私は車の中からその人を見つめました。するとお母さんは、その人に「大丈夫ですか。どこに行くのですか。」と車を降りて声をかけました。目の不自由な人は「駅に行きたいのですが。」と答えました。でもケーキ屋と駅の間は逆だしケーキ屋から駅までは遠いのです。

私たちが困っていると、近くにいた男の人が、「大丈夫ですか。」と声をかけてくれました。わけを話すと、その男の人が駅まで車で連れて行ってくれることになりました。私は、今まで目が不自由な人と話したことがありませんでした。だから、声をかけるという、勇気を出すことができました。なのに、お母さんやその男の人は迷わず声をかけていて、すごいと思いました。

また、別の日に電車でおばあちゃんの家に行つた時のことです。電車に乗っていると、ケーキ屋で会つた時と同じように、白い杖を持っている人がいました。そのことに気づいたお父さんは、すかさず席をゆずっていました。このように、私の周りには優しい人がいます。

そんなある日、私は体操の習い事へ行くため電車に乗っていました。すると義足の男の人が乗ってきました。私は前の出来事を思い出して勇気を出して声をかけ席をゆずってみました。すると



▲ 作文発表の様子